



リニューアル後の大浴場のイメージ。
木のぬくもりや美しい自然景観を生かす（NBIホールディングス提供）

長栄館 改装工事開始

雫石・鶯宿 木のぬくもり生かす

雫石町鶯宿の長栄館の再生プロジェクトを手がける

東京の投資会社NBIホールディングス（金谷隆行社長）は、来年7月のリニューアル開業に向けた工事を始めた。客室55室を改修し、スペースを広げた2室を新設。豊富で質の高い源泉を軸に木のぬくもりを生かした内装とする。地元を中心

に30～50人の雇用も生み出す。

全国屈指の湯量を誇る老舗旅館の魅力を最大限生かし、大浴場から露天風呂、客室、ロビー、エントランスまでほぼ全てを刷新する。地元を含む国内客とインバウンド（訪日客）をターゲットに、多様なグレイドの客室を整備。内装には

地元産材や古木を多く使い地域の文化、自然の美しさを表現する。

長栄館は経営不振に陥り昨年6月に営業を停止。再生プロジェクトには、金融機能を持ちながら不動産事業を手がけるSMF

I（みらいパートナーズ（東京、上田明社長）が参画。NBIのグループ会社から長栄館の土地、建物を取得し改修費用をサポートする。

改修や経営戦略などはNBIが主導し、運営会社も

選定する。旅館スタッフとして地元を中心に数十人規模の雇用も生み出す。

現地で19日、リニューアル工事の安全祈願祭が行われた。上田社長は「持続可能な観光資源として長栄館を復活させ、地域に活力を呼び込みたい」と語り、金谷社長は「SMFI（みらいパートナーズ、県、雫石町）と連携し再生と観光客誘致を進める。新たな価値を創出し、鶯宿温泉や地域の活性化、地方創生も目指す」とした。

※岩手日報2025年9月20日付

※岩手日報社の許諾を得て転載しています